2023年11月19日 中日新聞 朝刊 12頁

仮面が語る 共通文化

中世の民俗芸能 考える催し

文化芸大 特別展

三遠南信地域の民俗芸能について考えるイベントが18日、浜松市中区の静岡文化芸術大で開かれた。同大で開かれている特別展「まぼろしの祝祭（まつり） 天竜横山の神遊び」の関連行事で、長野県南信地域の住民らによる祭礼の実演もあった。（木谷孝洋）

イベントでは実演を交えながら面を使った祭礼が解説された＝浜松市中区の静岡文化芸術大で

つながる 三遠南信

イベントでは、同大の宮嶋隆輔客員研究員が「横山の仮面群と中世遠江の芸能世界」と題して講演。特別展のテーマである横山八幡神社（天竜区）の祭礼で使われた11の仮面について「翁」、「田遊び」、「鬼神」の三つのタイプに分類できると紹介し、現存する近隣の祭礼との比較から面がどのような祭礼で使われていたかを推測した。

面を使った祭礼は、北区引佐町の川名ひよんどりや、愛知県奥三河の花祭（はなまつり）など三遠南信地域に多く残る。この日は、長野県南信地域に伝わる「坂部の冬祭り」が大森山諏訪社氏子会によって披露された。南信州民俗芸能継承推進協議会アドバイザーの桜井弘人さんが祭礼の由来や儀礼を解説した上で、「祭りは14人の集落で継承している。どう守っていくか、地域全体で考えないといけない」と話した。

特別展は22日まで同大で開催。横山八幡神社で営まれてきた祭礼が1874（明治7）年に途絶えた理由について解説している。入場無料。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています